

令和 2 年 6 月 27 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02972

研究課題名(和文)小中学校の英語授業において生徒の異文化能力を促す指導を推進するための研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study to Promote Intercultural Teaching in English Language Classrooms

研究代表者

中山 夏恵(Natsue, Nakayama)

文教大学・教育学部・准教授

研究者番号：50406287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小学校外国語教育における異文化間能力(IC)育成を意図した指導の実態把握、児童の発達段階に応じて扱いやすいIC要素の特定、活動事例集の開発を通じたIC指導の普及・推進を目指した。

結果、移行期用教材においては「文化の働き」「文化への興味」「文化の多様性」等のIC要素が繰り返し観察された。内、「文化への興味」と「多様性」については、質問紙調査の結果、小学校全体を通して育成すべき項目とされた。一方、扱いが困難なものとして、教材分析や聴聞会の結果から「文化が与える影響」「文化の関連付け」等が挙げられた。しかし、育成が困難とされた要素であっても活動を通じて促される場合があることが観察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

21世紀市民に求められる能力の一部としても注目される異文化間能力(IC)の育成について、日本の小学校外国語教育の文脈において検討した。小学校段階において扱うことが妥当なIC要素、扱うことが困難なIC要素について、補助教材の分析や、英語指導者対象の聴聞会・質問紙調査など複数の調査を通じて分析した。また、IC要素を育む活動例を研究会やWSを通じ、指導者の先生方と作成・実践することで、より文脈に即した実践例を提案することが可能となった。更に、作成された活動例を分析することで、扱うことが困難とされるIC要素の育成法について示唆を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was three-fold: (1) To understand teaching situations in Japanese English classes that try to enhance students' intercultural competence (IC), (2) To identify what IC elements could be taught according to children's developmental stages, and (3) To promote IC teaching by developing IC activities for English classrooms. Data was collected through textbook analysis and a survey on teachers' perceptions of fostering certain ICs at different grades of elementary schools. Results showed the IC elements of "curiosity" and "cultural diversity" could be taught to children of all ages. Conversely, textbook analysis and interviews with Japanese elementary school English teachers revealed that "influence of culture" and "cultural relativism" were elements difficult to develop at the elementary level. However, classroom observations imply that these elements, which were identified as difficult, may still be developed through classroom activities aimed at enhancing IC.

研究分野：異文化アプローチによる言語教育

キーワード：異文化間能力、小学校外国語教育、教材分析、活動例、『言語教師のポートフォリオ(J-POSTL)』、『言語と文化の複元的アプローチ参照枠』

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の加速に伴い、「異文化間能力(IC:「異なる文化やアイデンティティを持った人同士が交流する際に、適切な態度を持って、文化間を仲介しながら、共通理解を構築することができる能力」Byram, 1997)」を備えることはますます重要になる。日本に目を向けると、学習指導要領(小学校外国語活動:文部科学省, 2008)において、「日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。」など IC と重なる内容が示されている。

このように、IC やそれと重なる能力は、注目されつつあるが、反面、その具体的な指導法については、学習指導要領や検定教科書等において、十分に示されているとは言い難い(中山・栗原, 2015)。そこで、前科研(「英語授業で求められる英語教師の異文化能力に関する研究」H25 - 27:課題番号 25370725)では、中等教育段階において「英語教師が備えるべき IC」・「生徒に育成すべき IC 要素」の可視化と IC 教育の現状理解に努めた。その結果、IC の概念とその指導法の理解があれば、検定教科書を用いた通常の英語授業と IC 育成を両立させることは十分に可能である可能性が示唆された。

一方、前科研で実施した検定教科書調査の結果からは、同じ中学用教科書でも、学年により扱われている文化的要素に差があることや、中1ではほとんど扱われていない IC 要素が、小学用教材では一部扱われているなど、言語学習で重要になる連続性が文化面では十分に考慮されていない現状が観察された。そこで、本科研(「小中学校の英語授業において生徒の異文化能力を促す指導を推進するための研究」H28-31:課題番号 16K02972)では、児童・生徒の発達段階に応じて扱いやすい IC 要素の特定、移行期用教材において扱われている IC 要素分析に加え、活動事例集の開発などを通じて IC 指導の普及・推進を目指すこととした。

### 2. 研究の目的

本研究では、日本の小学校において異文化間能力を育成する英語授業を推進するための IC 活動事例集を開発することを目指す。Byram (1997)は、思春期前の学習者に文化指導を行う際に、学習者の発達段階や精神的成熟度を考慮する必要性を指摘する。言い換えると、指導可能な IC 要素は児童・生徒の発達段階に応じて変化すると考えられる。加えて、子どもの徳育に関する懇談会(2009)は、子どもの成長について「個人差がある一方、子どもの発達の道筋やその順序性において、共通して見られる特徴がある」とも説明する。そこで、児童・生徒の発達段階に応じて育成可能な IC 要素を調査し、得られた結果に基づき活動例を作成する事で、子供たちの発達段階に即したものとなるよう留意したい。

### 3. 研究の方法

日本の教育環境に合った活動例を開発するため、小学校外国語教育の文脈における IC 指導の現状を調査した。その方法としては、主に以下の3点を行った。

1. 小学校の英語指導者対象に実施した聴聞会の結果から、指導者たちの IC 指導に対する意識とその実践について分析
2. 教育現場で多く扱われている可能性のある IC 要素を理解するため 補助教材(『Hi, Friends!』及び『We Can!』)に観察される IC 要素を分析
3. 2017年に告示された小中学校の新学習指導要領に含まれる IC と重なる観点を検討

児童の発達段階に応じて扱うことが妥当な IC 要素を特定するため、以下の2点を行った。

1. 小学校英語指導者対象に、J-POSTL(『言語教師のポートフォリオ』:JACET 教育問題研究会, 2014)に収録されている IC 授業に関する記述文と FREPA(『言語と文化の複元的アプローチ参照枠』:ECML, 2012)の記述文を対照し抽出した英語授業を通じ育成できる IC 要素 27 項目について、どの学年において育成することが妥当であるかを尋ねる質問紙調査を実施
2. 収集・作成した活動例を実践した結果、児童の反応を通じ観察された IC 要素を分析

英語授業における IC 指導についての理解を深めるため、文献研究、国内外における学会参加・発表に加え、授業見学を行った。また、活動例の開発・収集を目指し、小中学校の現職の英語指導者の先生方と共に研究会を発足した。並行して、国内外の複数の学校を訪問し、IC を促す授業の実際について理解を深めた。

### 4. 研究成果

#### (1) 28年度

小学校外国語教育の文脈における IC 指導の現状理解

前年度実施した小学校の英語指導者対象の聴聞会の結果を分析し、IC 指導に対する意識とその実践を探った。加えて、小学校外国語活動の補助教材(『Hi, Friends!』)に注目し、そこに観察される IC 要素を分析した。調査結果は、研究ノート「小学校外国語活動における異文化間能力育成に関わる指導の現状と課題 『Hi, Friends!』の分析を中心に」にまとめた。

IC 活動例の作成

IC 指導の意義についてご賛同いただいた現職の英語指導者に、IC 活動案をご作成頂き、筆者を含む指導者間における複数回の議論を経て、IC 指導としての適切性、促される IC 要素、児童の発達段階の観点から検討した上で、実践を行った。完成した活動例は、学会において報告した。

#### 英語授業における IC 指導の理解

海外における IC 指導の実態を調査すべく、イタリアの小・中学校を訪問した。ランポーネ氏（イタリア文部科学省ナショナルトレーニング教員研修指導者）を中心とした小学校現職英語教員による授業の見学及び聞き取り調査を実施した。授業では主に、CLIL（内容言語統合型学習）における「文化」につながる活動を見せていただいた。また、ミナルディ氏（シエナ大学講師）には、小学校英語教育の現状についてご講和頂いた。訪問調査から得られた示唆は、翌 29 年度に海外視察報告（「イタリアの CLIL 授業観察から考察する日本の外国語教育への応用」）に纏めた。

#### (2) 29 年度

##### 日本の IC 教育の現状理解

告示された小中学校の新学習指導要領に含まれる IC に連なる観点について検討した。その結果、特に「学びに向かう力、人間性等」にかかる目標や、「深い学び」という授業改善の視点に IC に連なる要素が含まれることが明らかになった。これらの分析結果は、以下の 2 種の資料に纏めた（「次期小学校学習指導要領と J-POSTL【小学校英語指導者編】自己評価記述文草案との対応」「次期中学校学習指導要領と J-POSTL 自己評価記述文との対応」）。また、改訂に対応して作成された補助教材（『We Can!』）を IC の観点から分析した。

##### 児童の発達段階に応じて扱うことが妥当な IC 要素の分析

小学校英語指導者対象に、先行研究から抽出した IC 要素が、どの学年において育成することが妥当であるか尋ねる質問紙調査を実施した。結果、すべての学年において育成が妥当とされる要素としては、「文化への興味」「他者への共感」などが挙げられた。一方で、育成が難しい要素としては、教材分析や聴聞会の結果からは、「文化が与える影響」「文化の関連づけ」が、質問紙調査からは「多様性の利点や欠点を議論する」「自・異文化についての判断を保留する」などが挙げられた。質問紙調査後に行った聞き取り調査の結果、アンケートで用いられていた用語に関する課題や、各 IC 要素のイメージし易さという要素が結果に影響を与えている可能性が示唆された。この調査結果については、国内外の学会にて報告した。

##### IC 活動例の収集・作成（研究会の開催）

「小学校において異文化間能力を育む指導について考える会」を発足した。12 月に第 1 回研究会を開催し、目標の共有を行った。これに並行して、複数の学校を訪問し、IC を促す授業の実践について理解を深めた。

#### (3) 30 年度

##### 日本の IC 教育の現状理解

前年度に実施した、移行期用補助教材（『We Can!』）の IC 要素の分析結果を改訂前の補助教材（『Hi, friends!』1&2）と比較することで、改訂に伴い教材において扱われる IC 要素がどのように変化したか調査した。得られた結果は研究ノート「学習指導要領の改訂に伴う小学校外国語教材の変化 異文化間能力育成の観点から」に纏めた。

##### IC 活動例の作成（研究会の開催）

「小学校において異文化間能力を育む指導について考える会」を 2 回開催した。研究会では、教員間で IC 指導についての共通理解を図るため、毎回、IC の概念や、教科書で扱われている IC 要素、また、IC 活動例を計画する WS を行った。その後、移行期用教材にあるテーマから発展させた IC 活動案を持ち寄り、発表・議論した。その後、授業実践を経て学会発表を行った。

##### 英語授業における IC 指導についての情報収集及び、普及推進活動の実施

これまでの研究成果を学会等で発表したり、IC 活動例を計画するワークショップを開催したりすることで、IC の概念及びその指導法の普及に努めた。また、異文化間教育の国際学会（Educating the Global Citizen: International Perspectives on Foreign Language Teaching in the Digital Age）に参加し、欧州の文脈における外国語教育の概念や指導法・実践について理解を深めた。

#### (4) 31 年度・令和元年度

##### 研究の総括

研究報告書を作成し、4 年間の研究を総括した。内容としては、4 年間の研究を概観する「本研究の概要」に加え、主に小学校の外国語教育の文脈における IC 指導の現状と課題及び、開発された活動例や、具体的な研究成果を纏めた。

##### IC の活動例を作成・提案

IC の活動例を現職の先生と共に立案した。その後、議論や実践を経て作成された活動例は、学会にて報告した。また、前年に研究会活動を通じて作成・実践した IC 活動例を児童の反応も含め、研究ノート「児童の異文化間能力を育む活動事例の提案 移行期用小学校外国語教材『We Can!』を中心に」(英語版:「English Classroom Activities that Enhance Students' Intercultural Competence: Based on the New English Materials Developed to Align with the Revised Course of Study」)に纏めた。

#### IC 指導の普及・推進活動

IC 活動を計画する WS の実施や、ウェブ記事の執筆を通じ、IC を促す英語授業の普及・推進を志した。

#### (5) 今後の展望

研究当初は、小中学校両方における IC 活動事例集の開発を意図して研究計画を立案していた。しかし、実際に研究協力を依頼できる方に中学校英語指導者が限られていたことや、時間的な制約などから、主として小学校に焦点を絞り研究を進めることとなった。そこで、当初計画していた中学校における発達段階ごとの IC 要素の特定にまでは至らなかった。

4年間を通じ、複数の活動例を作成し、学会や雑誌等で発表したり、研究報告書として纏めたりした。WS 等を通じ得られた実感として、ともすると抽象的に聞こえる IC の概念や IC 活動を行う意義が、収集された活動例を提示するで、より具体的にイメージされやすくなるという点がある。今後の課題としては、本研究で収集・開発された活動例を、児童の発達段階や、テーマごとに整理して提示する事で、さらに、現職の先生方にとってアクセスしやすい形に纏めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Natsue Nakayama, Rika Wakamatsu, Junya Narita, and Kagari Tsuchiya	4. 巻 6-2
2. 論文標題 English Classroom Activities that Enhance Students' Intercultural Competence: Based on the New English Materials Developed to Align with the Revised Course of Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teacher Education (JACET ELE- Journal)	6. 最初と最後の頁 62-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山夏恵・栗原文子	4. 巻 6-1
2. 論文標題 学習指導要領の改訂に伴う小学校外国語教材の変化 異文化間能力育成の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teacher Education (JACET教育問題研究会会誌)	6. 最初と最後の頁 94-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山夏恵・若松里佳・成田潤也・土屋佳雅里	4. 巻 6-1
2. 論文標題 児童の異文化間能力を育む活動事例の提案 移行期用小学校外国語教材 『We Can!』を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teacher Education (JACET教育問題研究会会誌)	6. 最初と最後の頁 113-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達理恵, 二五義博, 栗原文子, 中山夏恵, 藤原三枝子	4. 巻 5
2. 論文標題 イタリアのCLIL授業観察から考察する日本の外国語教育への応用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Language Teacher Education (JACET教育問題研究会会誌)	6. 最初と最後の頁 145-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山夏恵	4. 巻 4
2. 論文標題 小学校外国語活動における異文化間能力育成に関わる指導の現状と課題 『Hi, Friends!』の分析を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Language Teacher Education	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 中山夏恵, 山口高領, 久村 研
2. 発表標題 英語指導者の資質・能力に対する小学校現職教員の意識と小・中・高の連携の課題 小学校現職教員対象「J-POSTLエレメンタリー」全国調査の結果から
3. 学会等名 JACET関東支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山夏恵
2. 発表標題 児童・生徒の異文化間コミュニケーション能力を育む授業を考える
3. 学会等名 横須賀市国際教育研究会 ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山夏恵, 成田潤也, 土屋佳雅里
2. 発表標題 児童の発達段階に即した異文化理解活動の提案 色の捉え方の文化差に注目して
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 第 39 回秋季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山 夏恵
2. 発表標題 "How to enhance intercultural competence in Japanese primary school English classes"
3. 学会等名 JALT群馬支部 Monthly Meeting (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山 夏恵
2. 発表標題 小学校において育成すべき異文化間能力の検討－英語指導者対象の意識調査から
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) The 57th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山 夏恵, 若松 里佳, 成田 潤也, 土屋 佳雅里
2. 発表標題 異文化間能力を促す活動案の提案 移行期用教材『We Can!』に注目して
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第38回秋季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山 夏恵
2. 発表標題 深い学びと異文化理解
3. 学会等名 教育課題解決セミナー (文教大学生涯学習センター主催)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長田 恵理, 山口 高領, 中山 夏恵, 久村 研
2. 発表標題 小学校現職教員対象「J-POSTLエレメンタリー」全国調査結果の概要と今後の課題
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019 (JACET教育問題研究会主催)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山 夏恵
2. 発表標題 小学校英語授業の現状と課題 異文化間能力育成の観点から
3. 学会等名 小学校テーマ別英語教育研究会(ESTEEM) Study Meeting
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山夏恵, 栗原文子, 久村研
2. 発表標題 言語教師のポートフォリオ(J-POSTL)の有効性 次期学習指導要領に含まれる諸概念の可視化を目指して
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会 (KATE) 第41回新潟研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗原文子, 中山夏恵
2. 発表標題 CLILにおけるCultureとCommunityに関する一考察 イタリアの小・中学校のCLIL授業を中心に
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会 (KATE) 第41回新潟研究大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 浅岡千利世, 栗原文子, 中山夏恵, 清田洋一
2. 発表標題 J-POSTLを活用した英語教師教育の方法 - 成長する英語教師を目指して
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) The 56th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安達理恵, 二五義博, 栗原文子, 中山夏恵
2. 発表標題 イタリアのCLIL授業観察から考察する日本の外国語教育への応用
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第37回秋季研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山夏恵
2. 発表標題 小学校における指導事例集開発の提案
3. 学会等名 小中学校において異文化間能力を育む指導について考える会 (JACET教育問題研究会主催)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山夏恵
2. 発表標題 IC指導の重要性と指導事例集の収集の意義
3. 学会等名 小中学校において異文化間能力を育む指導について考える会 (JACET教育問題研究会主催)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部志乃, 安達理恵, 中山夏恵, 栗原文子
2. 発表標題 言語と異文化への関心を高める小学校外国語教育
3. 学会等名 言語教育エキスポ ( JACET教育問題研究会主催 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Natsue Nakayama, Fumiko Kurihara
2. 発表標題 Tips on fostering intercultural communicative competence in Japanese primary school English classes
3. 学会等名 53rd RELC International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山夏恵・大崎さつき・安達理恵・栗原文子
2. 発表標題 小学校英語教育における異文化間能力育成の重要性と指導の観点
3. 学会等名 大学英語教育学会 ( JACET ) The 55th JACET International Convention ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山夏恵
2. 発表標題 日本の中学校英語教科書に見られる異文化間理解教育
3. 学会等名 異文化間理解教育についての講演会とシンポジウム ( JACET教育問題研究会主催 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山夏恵・栗原文子
2. 発表標題 グローバル時代に求められる異文化間能力 - 英語授業における現状と課題 -
3. 学会等名 国際教育研究所 第167回月例研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山夏恵・土屋佳雅里・若松里佳
2. 発表標題 児童の異文化間能力を促す英語授業の検討 - J-POSTL(言語教師のポートフォリオ)の記述文を中心に
3. 学会等名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第36回秋季研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山夏恵・土屋佳雅里・金藤明美・宇田川きのみ・若松里佳
2. 発表標題 小学校の英語授業における 児童の異文化間能力を育成する指導の意義と可能性
3. 学会等名 言語教育エキスポ2017(JACET教育問題研究会主催)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本多敏幸・中山夏恵・長沼君主
2. 発表標題 次期学習指導要領の3つの柱を踏まえた小・中・高の指導と接続を考える
3. 学会等名 E L E C 同友会英語教育学会 教科書著者による小・中・高教科書指導法ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【資料】 「次期小学校学習指導要領とJ-POSTL【小学校英語指導者編】自己評価記述文草案との対応」『Language Teacher Education (JACET教育問題研究会会誌)』Vol.5 No.1, 184-203, JACET教育問題研究会. 「次期中学校学習指導要領とJ-POSTL自己評価記述文との対応」『Language Teacher Education (JACET教育問題研究会会誌)』Vol.5 No.1, 204-210, JACET教育問題研究会.</p> <p>【web記事】 『NEW HORIZON Elementary 5, 6』に観察される異文化理解の視点 <a href="https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-01.htm">https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-01.htm</a> 異文化理解を促す授業を考える 『NEW HORIZON Elementary 5』を中心に <a href="https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-02.htm">https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-02.htm</a> 異文化理解を促す授業を考える 『NEW HORIZON Elementary 6』を中心に <a href="https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-03.htm">https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2019/2019063603/2019063603-03.htm</a></p> <p>【研究成果報告書】 平成28,29,30,31(令和元年度)科学研究費補助金基盤研究C 研究成果報告書 『小中学校の英語授業において生徒の異文化能力を促す指導を推進するための研究』</p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	栗原 文子  (Kurihara Fumiko)		
研究協力者	久村 研  (Hisamura Ken)		
研究協力者	土屋 佳雅里  (Tsuchiya Kagari)		
研究協力者	成田 潤也  (Narita Junya)		